

高等学校における学校図書館展示の現状と課題

佐藤 優

近年、児童・生徒の主体性を重視する教育により、「学習活動」や「読書活動」の推進が学校図書館へ求められているが、中学校、高等学校と、年齢が上がるほど、学校図書館の利用率や、1か月あたりの平均読書冊数は低下しており、半数以上が1か月に1冊も本を読んでいない現状が問題となっている。そのような中で、「図書館が本と人とを結ぶ新たな取り組み」として、展示が注目されている。本研究では、高等学校図書館における学校図書館展示の現状を明らかにし、学校図書館展示の課題を考察することを目的とする。

研究にあたっては、実践例を集め、図書館展示の意義や目的、構成要素を考察することを目的として、文献調査を行った。次に学校図書館展示の現状を把握し、質問紙の質問項目の参考にするため、聞き取り調査を行った。質問紙調査では、文献調査・聞き取り調査で考察した、分析の視点について、学校図書館展示の現状や担当者の意識を明らかにすることを目的として、質問紙調査を行った。対象校は秋田県の県立全日制高等学校49校とし、21校から回答を得た。

質問紙調査の結果から、学校図書館展示の現状について(1)学校図書館展示の研修への参加を希望しているにもかかわらず、研修に参加できていない人が多いこと、(2)学校図書館展示の担当者は、学校図書館担当者に次いで生徒が多いこと、(3)「読書推進に関わる展示」、「学校図書館の活用を促進する展示」が多く行われており、「教科学習に関する展示」は少ないこと、(4)「国語」や「地理歴史」、「公民」等の科目を意識した学校図書館展示が多く行われており、「数学」、「情報」等の科目を意識したものは少ないこと、(5)担当者が想定していない点で効果が表れていること、(6)学校図書館展示の効果を担当者が把握できないことが多いことの6点が挙げられる。

以上の結果から、学校図書館展示における今後の課題として、(1)学校図書館展示に関する研修を充実させること、(2)生徒が参画しやすい読書推進活動として学校図書館展示を活用すること、(3)教科学習に着目して展示を行うこと、(4)教科の偏りを無くすように意識して、幅広い分野の展示を行うこと、(5)学校図書館展示の効果を把握する手段を確立し、学校図書館展示の内容と効果の対応を明らかにすることの5点を挙げる。

これらの課題を解決することにより、学校図書館展示がより効果的なものとなり、学校図書館の利用や、「学習活動」や「読書活動」の推進等に影響を与えると考える。

(指導教員 平久江祐司)